



平成29年7月20日(木)

藤 棚

第340号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

我が身を守り 秋風の頃の再会を

校長 小川義男

学問的に大成するかどうかは、自学自習の姿勢を確立できるかどうかにかかっている。高等部三年生の場合、この夏は、人生最大の勝負だと言える。ここで負けたら、その次の戦闘で失地を回復することは、相当に難しい。およそ戦いとは、いかなる場合も、自己内面に潜む弱さとの戦いである。特に三年生は、人生がかかっているのだから、意志強く、この夏を戦わなくてはならぬ。

私の親友の伯父は、台湾知事まで上り詰めた人である。(当時台湾は、正当に日本領であった)この伯父が、高等文官の試験を受ける頃、流石に東京の夏は暑かった。私の友人の父、つまり「知事」の弟は、盥に入り勉強している兄に、冷水を掛け通したそうである。水を掛けながら「知事」(当時はただの書生だが)は、脇目もふらずに勉強したそうである。今はエアコンが普及している。軽井沢や志賀高原に行かずとも、電氣的に暑さを克服することができる。勉強したくないなんて、よく言えるものだなと私は思う。この勉強には、諸君と、その将来の家族の運命もかかっている。頑張ってもらいたい。

中等部、高等部、共に夏は危険が一杯だ。

本校では、アルバイトを禁止している。特に女生徒が、どこかで働いたりする場合、「職場」には、絶対的指揮命令関係が存在する。それが、働いて金を貰うということなのだ。本校がアルバイトを禁じているのには、過去の経験に基づく深い意味もある。保護者は、このあたりを、深く理解して貰いたい。

安全に関しては、素性の知れぬ者と、ネットを通ずるなどして、絶対に交際を始めてはならぬ。素性定かならぬ者と付き合っ、殺されたり、傷つけられたりするケースが、どれほど多いかを、聡明に把握しておかねばならぬ。

夜の外出は特に危険である。私は日没以後の外出は極力控える。用心深さとは、それほどに大切なのである。

夏だから海に行く機会もあるかも知れぬ。

海は川と違って毒クラゲやサメが出没する危険もある。砂浜は、岸に近づくとかえって深いという場合もある。私は海好きだが、砂浜では泳がなかった。必ず岩浜で、常に距離を念頭に置い

て泳いだものである。小樽の祝津海岸の水の美しさ、岩の上から見た底の深さなど、今も懐かしく思い出す。

クラゲと言えば、海水浴中の人々が、次々に激痛に襲われるので、「電気くらげ」と呼ばれるものが出たこともある。湘南だったのではないだろうか。

船釣りに出ている、あまりに暑いので、衣服を脱ぎ捨て、飛び込もうとしていたら、船頭さんに、どやされた。その海域には、常に確実にサメが出たのだそうである。

離岸流というものがある。沖に向かって流れる速度の速い海流である。プールとは違う。大自然は、危険も又一杯に存在するのだということを忘れてはならぬ。

しかし、一番恐ろしいのは、交通事故だろうな。中には携帯をいじりながら運転していたという愚か者もいるのだから、「車は私を狙ってくる」くらいの用心深さで、道路を横切らなくてはならぬ。

数は少ないのだが、世の中には犯罪者もいる。特に女生徒の場合、車の中に引きずり込まれたら、その瞬間に、車内は地獄と変わる。夜だけではない。怪しく近づいてくる車に対しては、逃げたり叫ぶたり、110番するたり、賢く、徹底的に用心しなくてはならぬ。怪しげな裏道は避ける事だ。

やがて初秋の風が吹く。みんな揃って、元気に明るく再会しよう。

特に中学生に

東大を突破する第一の道 それは活字に親しむことだ

映像文化は、常にチャンネルを切り換えられることを恐れる。民放は、すべてコマーシャル代で支えられているのだから、切り換えられては大変である。だから、視聴者に媚びるし、難解な言葉は用いない。当然、お笑い芸人のような者を多用する。深い思想を開陳できる訳がない。

NHKはそうではないが、国民から、受信料を強制徴収している関係で、民放に負けるわけにはいかない。だからNHKも、視聴率競争に無関心ではいられないのである。

質的に深い思想や見解は、どうしても難解になる。そこから、「易しいことは良いことだ」という思想が生まれてくる。

映像文化のみに入り浸っている人々を、私は大衆と呼んで良いと思う。日本を支える最も大切な人々である。しかし、大衆では、東大に入ることはできない。東大は、意志強く学び、辛苦の思索に耐えられるリーダーを育てる場所だからである。

だから、志ある中学生、国家のために身を呈して努力する意志のある高校生は、日々映像文化に明け暮れる大衆であってはならない。スマホを歩きながら、いじるような「大衆」「群衆」であってはならない。

世の中で最も醜い若者、それは、歩きながらスマホに明け暮れている、疑似高校生である。醜いだけでなく危険だ。我々はすべて、夕暮れには、無事で元気で、家族の元に帰り着く責任を負っている。

まして志ある若者、東大を目指す中学生、高校生は、スマホなどには目もくれず、生活の中で活字文化に浸る比重を高めてはならぬ。英語だけではない。数学だけではない。自らの日々に、活字文化の占める比率を高める事が、明日に結びついていくのだ。

青春が重ねて回ってくることはない。自らに厳しく生きよ！